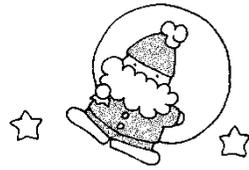
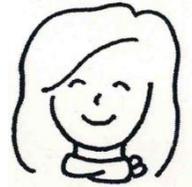


ほけんだより



No.9 学校保健委員会号
R 元.12.12
郷内中 保健室

福添校長先生からみなさんへ
伝えたいこと



令和元年度 学校保健委員会

災害を考える



～もしもの時、わたしたちにできることは何だろう～

本校の福添校長先生(前 真備中学校 教頭)に保健委員がインタビュー形式で質問し、昨年7月の豪雨災害のお話をいただきました。

当時の悲惨な状況を物語る数々の写真や、私たちと同じ中学生のせつない文章に、心を打たれた人も多かったのではないのでしょうか。

最後には一人ひとりが、「わたしたちにできること」を考えることができました。もしもの時に備えて、ぜひ、今日からやってみよう。

平成30年7月豪雨
真備



真備の上空写真



避難所の人々



「自分は大丈夫」が命取り



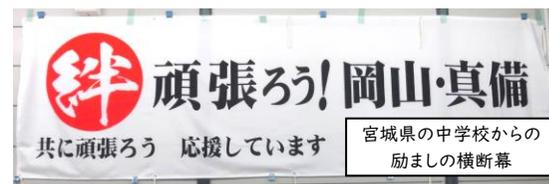
ポニーとの奇跡の再会に喜び、涙する飼い主さん



屋根の上で救助を待つ人々



豪雨の中、屋根に逃げて生き延びたポニー



① 「自分は大丈夫」と思わないで

ついつい「大丈夫だろう」と思ってしまうことを「正常性バイアス」という言葉で説明しましたね。このゆだんの気持ちが命取りです。災害が発生したときには、「最悪の事態になってしまうかも」と想定して、早めの避難、命を守る行動をとりましょう。

② あなたたちにできることはたくさんある

まだ中学生だから何もできないのでは?—そうではありません。あなたたちの知識、判断、説得、声かけ、行動、そしてなによりその笑顔が、多くの人々の力になります。災害に備えてできることもたくさんあるし、災害が起こった後にできることもたくさんあります。これから先、大人になっても、「自分と大切な人の命を守るための行動」ができる人であってほしいなと思っています。

例えば...

★災害に備えてできること

- ・ハザードマップを確認し、家族と緊急時の集合場所について話し合う。
- ・実際に避難経路を歩いてみて、危険なところをチェックする。(用水路など)
- ・避難グッズを用意し、まとめ、いつでも取り出せる場所に置く。



★災害が起こった後にできること

- ・まわりの人に声をかけて、早めに避難の行動をとる。
- ・無理のない範囲で、力仕事をすすんでおこなう。
- ・「頑張ろう」「ここで負けないぞ」と励まし、支えあう。



③ 思うだけでなく、実際に行動を

例えば、「避難グッズを用意しなきゃいけないなあ...」と書いていても、実際に必要なものを揃えてまとめておくところまでできなければ、意味がありません。今回の学校保健委員会の最後に一人ひとりが考えた「わたしたちにできること」を、ぜひ実際に行動にうつしてください。



☆うら面につづく➡